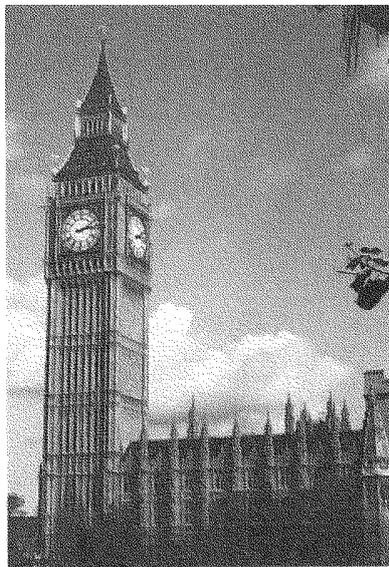


世界史 B

(解答番号 ~)

第 1 問 歴史的建造物や遺跡について述べた次の文章 A ~ C を読み、下の問い(問 1 ~ 9)に答えよ。(配点 25)

A ロンドンのウェストミンスターには、国会議事堂をはじめとする①歴史的建造物があり、それらはユネスコの世界遺産に登録されている(下図参照)。今も議事堂内部に残るウェストミンスター=ホール(王宮)は、11 世紀末に建設され、中世の間に、次第に政治における中心的な場所となっていく。13 世紀には、王に対して②反乱を起こした貴族が、この場所で国政を協議した。その後、③17 世紀初頭には、王を暗殺しようとした者たちによって、議事堂の爆破が計画された。中世の王宮を起源とする国会議事堂は、それからも数々の歴史的イベントの場となった。



イギリスの国会議事堂

問1 下線部①について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ
選べ。

- ① ヴェルサイユ宮殿は、フランソワ1世によって建てられた。
- ② スレイマン=モスクは、タブリーズに建てられた。
- ③ アンコール=ワットは、クメール人によって建てられた。
- ④ アルハンブラ宮殿は、セルジューク朝によって建てられた。

問2 下線部②に関連して、反乱や独立運動、戦争について述べた文として正しい
ものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① メキシコで、トゥサン=ルヴェルチュールが指導する独立運動が起こった。
- ② ポーランドで、ステンカ=ラージンの反乱が起こった。
- ③ フランス軍は、マルヌの戦いで進撃を阻止された。
- ④ 黄巾の乱が、後漢で起こった。

問3 下線部③の時期にイギリスで起こった出来事として正しいものを、次の①～
④のうちから一つ選べ。

- ① エドワード1世が模範議会を招集した。
- ② チャールズ1世が処刑された。
- ③ ジェニー紡績機(多軸紡績機)が発明された。
- ④ 労働組合法によって、組合の法的地位が認められた。

B 奈良時代に編纂された『日本書紀』の雄略天皇5年(461年)条には、④百済の女性が日本の各羅嶋で男児を出産し、その子は「嶋君」と名づけられ、長じて百済の王(第25代の武寧王)に即位したと記されている。この挿話は、『日本書紀』にのみ見えており、かつては単なる創作ではないかとも考えられていた。ところが、⑤1971年、韓国・公州の宋山里古墳から石板が出土し、そこには、武寧王の名である「斯麻」の文字とともに、彼が523年に62才で没したことが刻まれていたのである。これにより、『日本書紀』と石板とで、彼の名と生年がほぼ一致することが明らかとなった。⑥考古学的な発見が歴史書の記述の信憑性を高めた一つの事例といえるだろう。

問4 下線部④に関連して、朝鮮半島の歴史について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 高句麗・新羅・百済が並び立った時代は、三国時代と呼ばれる。
- ② 高麗は、大祚榮によって建国された。
- ③ 大院君は、欧米諸国の開国要求を受け入れた。
- ④ 李承晩政権は、日韓基本条約を結んだ。

問5 下線部⑤に関連して、冷戦期の出来事について述べた次の文 **a** ~ **c** が、年代の古いものから順に正しく配列されているものを、下の①~⑥のうちから一つ選べ。 5

- a** チェルノブイリ原子力発電所の事故が発生した。
- b** 日中平和友好条約が締結された。
- c** キューバ危機が発生した。

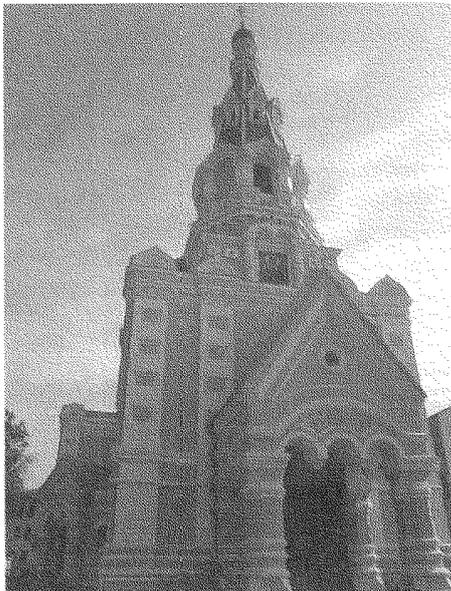
- ① **a** → **b** → **c**
- ② **a** → **c** → **b**
- ③ **b** → **a** → **c**
- ④ **b** → **c** → **a**
- ⑤ **c** → **a** → **b**
- ⑥ **c** → **b** → **a**

問6 下線部⑥に関連して、遺跡や遺物の発見について述べた次の文 **a** と **b** の正誤の組合せとして正しいものを、下の①~④のうちから一つ選べ。 6

- a** スペインのラスコーで、洞穴絵画(洞窟絵画)が発見された。
- b** 秦の始皇帝陵の近くで、兵馬俑が出土した。

- ① **a** — 正 **b** — 正
- ② **a** — 正 **b** — 誤
- ③ **a** — 誤 **b** — 正
- ④ **a** — 誤 **b** — 誤

C ベラルーシ南西部の都市ブレストには、この地をかつて支配した国家の記憶を残す建造物が多い。聖ニコラス教会は、⑦ポーランド支配下にあった 16 世紀末に、東方典礼を維持しつつローマ教皇の権威を認めるギリシア=カトリック教会が成立した場所である(下図左参照)。ドイツとソヴィエト=ロシアが第一次世界大戦中に支配領域について合意した宮殿も、この地に残っている。⑧第二次世界大戦では、⑨ロシア帝国時代に造られたブレスト要塞が激闘の場となった。戦後のソ連で「英雄要塞」の呼称を得た同要塞は、今日、戦争記念碑群の一部を構成している(下図右参照)。



聖ニコラス教会



戦争記念碑

問7 下線部⑦の歴史について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① コペルニクスが、天動説を唱えた。
- ② コシューシコ(コシチューシコ)が、パリ=コムューンに参加した。
- ③ 冷戦期に、ピウスツキが政権を握った。
- ④ スターリン批判をきっかけに、ポズナニで暴動が起こった。

問8 下線部⑧に関わる歴史的建造物について述べた次の文章中の空欄「ア」と「イ」に入れる語の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

8

アウシュヴィッツ強制収容所は、「ア」と呼ばれるユダヤ人虐殺の舞台となった。ナチス=ドイツの指導者らは、それらの責任を問われ、戦後に「イ」で開かれた国際軍事裁判で裁かれた。

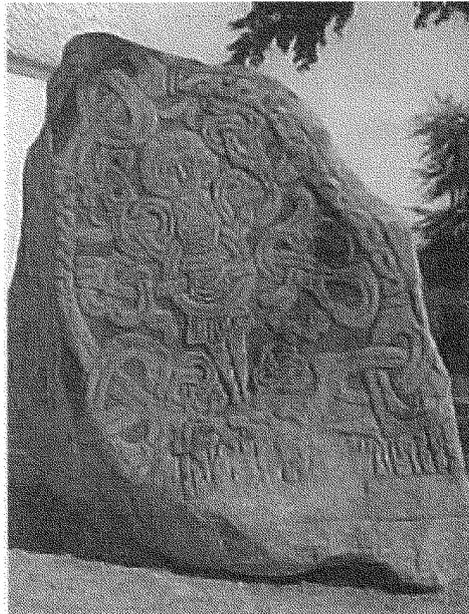
- ① アーホロコースト イーハンブルク
- ② アーホロコースト イーニュルンベルク
- ③ アーレジスタンス イーハンブルク
- ④ アーレジスタンス イーニュルンベルク

問9 下線部⑨に関連して、ロシアやソ連の君主・指導者について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 9

- ① イヴァン3世は、ツァーリ(皇帝)の称号を用いた。
- ② レーニンが、一党社会主義を唱えた。
- ③ ゴルバチョフが、グラスノスチを進めた。
- ④ ケレンスキーが、臨時政府を率いた。

第2問 記録や文字について述べた次の文章A～Cを読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 25)

A ①デンマークのイエリングに残る大小二つの石碑は、10世紀に当地を支配した二人の王、ゴーム老王とその息子ハーラル青歯王が建てたものである。ハーラルの石碑にはルーン文字による碑文が刻まれており、ハーラルが全デンマークとノルウェーを②支配し、デンマークの住民をキリスト教へ改宗させたことを伝えている(下図参照)。当時の北欧では、石碑や口頭伝承が③王侯の事績を顕彰する重要な手段であった。今日、このハーラルの統一事業は、多様な電波の統一という理念と重ねられ、北欧の企業を中心に開発された無線通信規格に、「青歯王」の名が用いられている。



石碑に刻まれたキリスト像と碑文

問1 下線部①に関連して、北海・バルト海周辺の歴史について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 10

- ① イングランド出身のクヌート(カヌート)が、デンマーク王となった。
- ② フランドル地方の都市は、イングランドから羊毛を輸入した。
- ③ スウェーデン王グスタフ＝アドルフが、ファルツ継承戦争(ファルツ戦争、プファルツ継承戦争)に参戦した。
- ④ ジェームズ1世が航海法を制定し、オランダの中継貿易に打撃を与えた。

問2 下線部②について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 11

- ① ブラジルが、フォークランド(マルビナス)諸島の領有をめぐってイギリスと戦った。
- ② ドイツが、カメルーンを獲得した。
- ③ フランスが、ホルムズを占領した。
- ④ オランダが、ニューファンドランドを獲得した。

問3 下線部③に関連して、事績や戦争の記録について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 12

- ① アショーカ王の石柱碑が、ガンジス川流域の各地に建てられた。
- ② カエサルが、『ガリア戦記』を著した。
- ③ バイユーの刺繍画(タペストリ)には、マジヤール人によるイングランド征服の様子が描かれている。
- ④ ダヴィドが、「ナポレオンの戴冠式」を描いた。

B モンゴルの人々は自らの④文字を持たなかったが、モンゴル帝国期に至り、ウイグル文字、あるいはパスパ文字を用いたモンゴル語で『元朝秘史』が著されることとなる。そこには、史実にフィクションを織り込むかたちで、⑤チンギス=ハンの伝説上の祖先の歴史から、チンギスの生い立ちと事績、そして後継者の治世までが記された。これによりチンギスとその後継者の支配の正統性がうたいあげられたのである。モンゴル帝国期以降においても、チンギスの血統を王権の正統性の根拠とする原則が継承され、⑥ティムール朝など後継の遊牧国家で、チンギス以来の系譜を柱とする歴史書が編纂^{へんさん}されていく。

問4 下線部④に関連して、国家の建設と文字の制作について述べた次の文中の空欄 **ア** と **イ** に入れる語の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 **13**

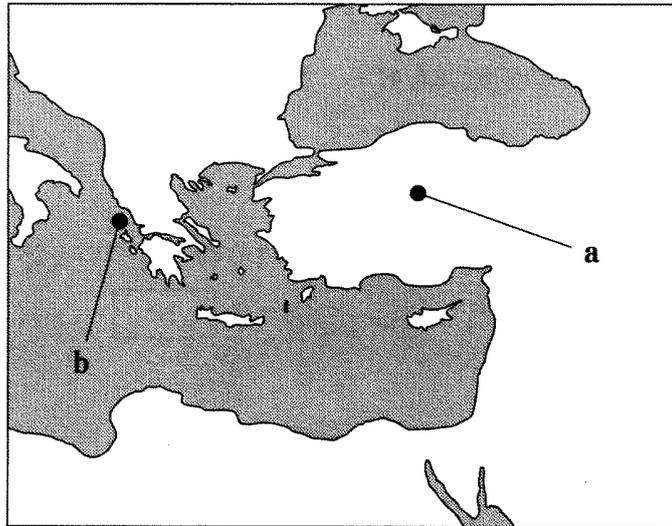
12世紀に **ア** によって建国された金では、周辺諸国の文字の影響を受けて独自の文字である **イ** が作られた。

- ① **ア**—耶律大石 **イ**—女真文字
- ② **ア**—耶律大石 **イ**—満州文字
- ③ **ア**—完顔阿骨打 **イ**—女真文字
- ④ **ア**—完顔阿骨打 **イ**—満州文字

問5 下線部⑤の人物の事績について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **14**

- ① ホラズム=シャー朝(ホラズム朝)を倒した。
- ② ワールシュタットの戦いで、ドイツ・ポーランドの諸侯の連合軍を破った。
- ③ 大都を都に定めた。
- ④ チャハル(チャハル部)を従えた。

問6 下線部⑥に関連して、ティムールがオスマン帝国軍を打ち破り、そのスルタンを捕虜とした戦いが行われた場所の名と、その位置を示す次の地図中の **a** または **b** の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 15



- ① プレヴェザー **a**
- ② プレヴェザー **b**
- ③ アンカラ **a**
- ④ アンカラ **b**

C ⑦ムガル帝国の歴代の皇帝たちは、文学や絵画、建築といった様々な文化事業を推進し、自らも詩作などの文芸活動を行った。初代皇帝は、チャガタイ=テュルク語で回想録を著した。皇帝による回想録は、彼らが統治した時代に関する⑧歴史研究にとって極めて貴重な史料である。第4代皇帝ジャハーンギールの統治下に、ペルシア語で記された『ジャハーンギール回想録』はその好例である。この書には、帝国の最盛期を支えた⑨貴族制度や経済的繁栄についてのみならず、皇帝が狩猟や絵画鑑賞を好み、動植物に対して鋭い観察の目を向けていた様子や、^{きさき}妃や息子たちに抱いていた個人的な感情についても記されている。

問7 下線部⑦に関連して、インドの王朝や政治勢力について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 16

- ① ムガル帝国は、アクバルの時代に領土が最大となった。
- ② チョーラ朝は、清に使節を派遣した。
- ③ イギリス東インド会社は、マドラスに拠点を築いた。
- ④ ヴィジャヤナガル王国は、インド洋交易で大量の馬を輸出した。

問8 下線部⑧に関連して、歴史書や歴史学について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 17

- ① ヘロドトスは、ササン朝との戦争を扱った歴史書を著した。
- ② 司馬遷は、『史記』を著した。
- ③ イブン=ハルドゥーンは、『世界史序説』（『歴史序説』）を著した。
- ④ ランケは、史料批判に基づく近代歴史学の基礎を築いた。

問9 下線部⑨について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ
選べ。

18

- ① プロイセンの地主貴族(領主)は、ユンカーと呼ばれた。
- ② 古代ローマの貴族は、プレブスと呼ばれた。
- ③ 宋代に、士大夫にかわって貴族が台頭した。
- ④ アンシャン=レジームでは、貴族は第一身分とされた。

第3問 国際関係について述べた次の文章A～Cを読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 25)

A 北米大陸において、約6,000キロメートルにわたって国境を接する①アメリカ合衆国とカナダの間では、19世紀後半以降、経済関係を強化する試みがたびたび検討された。ただ、このような試みは20世紀前半まで、わずかな時期を除いて推進されることはなかった。イギリスから②独立したアメリカと経済関係を強めることは、国王に対する裏切りであるという意見が植民地カナダでは根強かったためである。しかし、大恐慌の発生に至ってカナダは輸出市場の拡大を目指し、アメリカと通商協定を締結した。これ以降、カナダは③イギリスとの経済関係を維持しつつも、北米自由貿易圏の形成に向けて歩みを進めていくこととなった。

問1 下線部①の経済について述べた文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 19

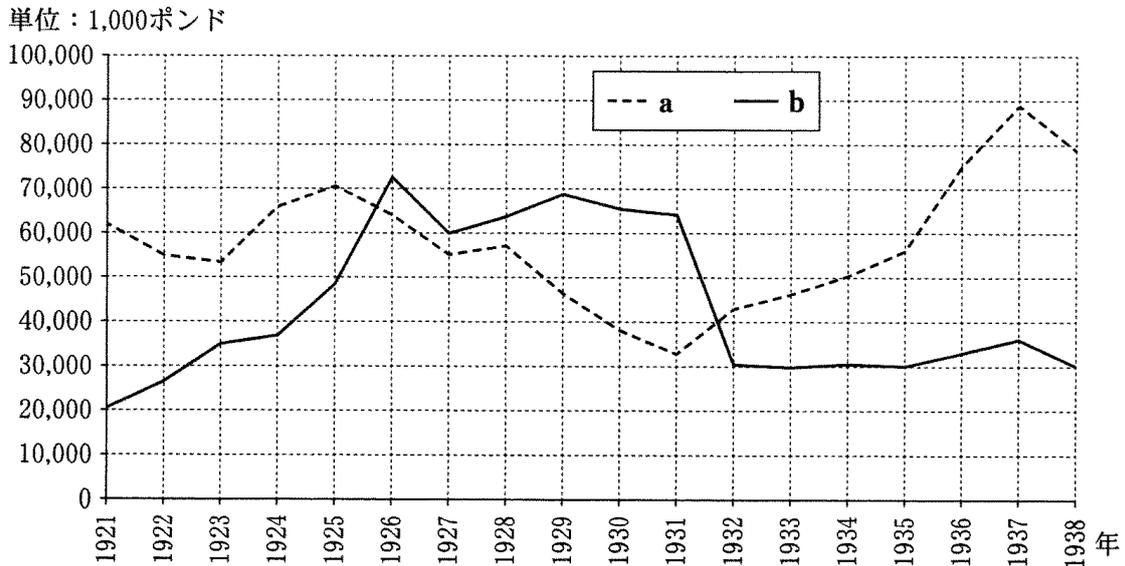
- ① 第一次世界大戦の影響で、債権国から債務国に転じた。
- ② 革新主義の影響で、企業の独占が推進された。
- ③ テネシー川流域開発公社(TVA)の設立で、雇用の拡大が図られた。
- ④ アメリカ=イギリス戦争(米英戦争)の影響で、工業化が抑制された。

問2 下線部②について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 20

- ① モザンビークが、イタリアから独立した。
- ② ギリシアが、オーストリアから独立した。
- ③ 黎朝は、明軍を破って独立した。
- ④ シンガポールは、インドネシアから独立した。

問3 下線部③に関連して、次の文章は、1920年代から30年代にかけてのイギリスの経済政策について述べたものである。また下のグラフは、その時期のドイツとカナダからのイギリスの輸入額を示したものである。文章中の空欄 **ア** に入れる語と、グラフ中のカナダを示す折れ線 **a** または **b** との組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 21

世界恐慌に直面したイギリスは、 **ア** を開いて、経済ブロックの形成を推進した。これによって、ブロック加盟国との貿易が活発化する一方、列強間の経済的対立は激化し、後の世界大戦の一因ともなった。



(Statistical Abstract for the United Kingdom, 1911-1925, 1924-1938 より作成)

- ① イギリス連邦経済会議(オタワ連邦会議) — **a**
- ② イギリス連邦経済会議(オタワ連邦会議) — **b**
- ③ ダンバートン=オックス会議 — **a**
- ④ ダンバートン=オックス会議 — **b**

B 近世ヨーロッパでは、複数の国を同一の君主や王家が支配する複合的な国家が広く存在したため、王位継承をめぐる争いが、しばしば④国際関係上の問題となった。このことは、⑤名門王家が君臨するスペインなどの大国だけでなく、小国の継承問題についてもあてはまる。例えば、北イタリアのモンフェッラート公国とマントヴァ公国は、17世紀にともにゴンツァーガ家が公位を担っていたが、代替わりの際に諸外国の介入を招き、2度にわたって継承戦争が起こった。その後も両公国は、最終的に隣接諸国に併合されて消滅する18世紀まで、フランスや教皇国家、さらには⑥オスマン帝国もが直接的・間接的に関与する覇権争いの場となった。

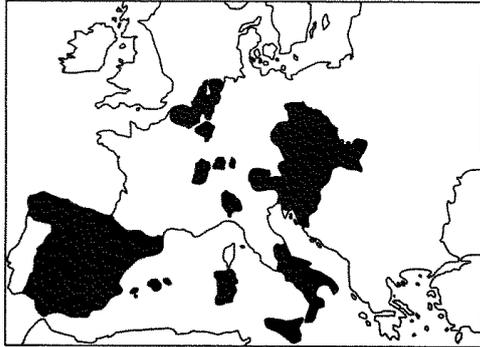
問4 下線部④について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

22

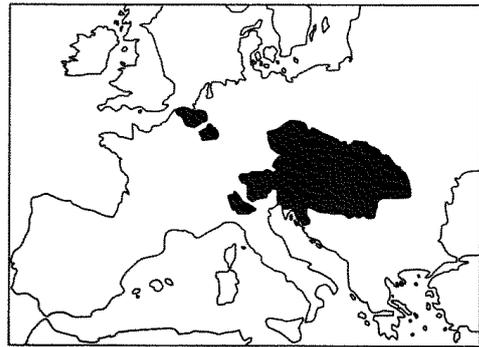
- ① メアリ1世治世下で、イングランドとスコットランドが合同して、グレートブリテン王国が成立した。
- ② アメリカ合衆国によるテキサス併合を契機に、アメリカ=メキシコ戦争が起こった。
- ③ フランスとイタリアは、トリエステ・南チロルの領有をめぐる対立した。
- ④ ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体(E C S C)を基に、ヨーロッパ自由貿易連合(E F T A)が結成された。

問5 下線部⑤に関連して、次の地図 **a** と **b** は、ある王家のヨーロッパにおける支配領域を示したものである。この王家の名と、それぞれの地図が示す支配領域の時期との組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

23



a



b

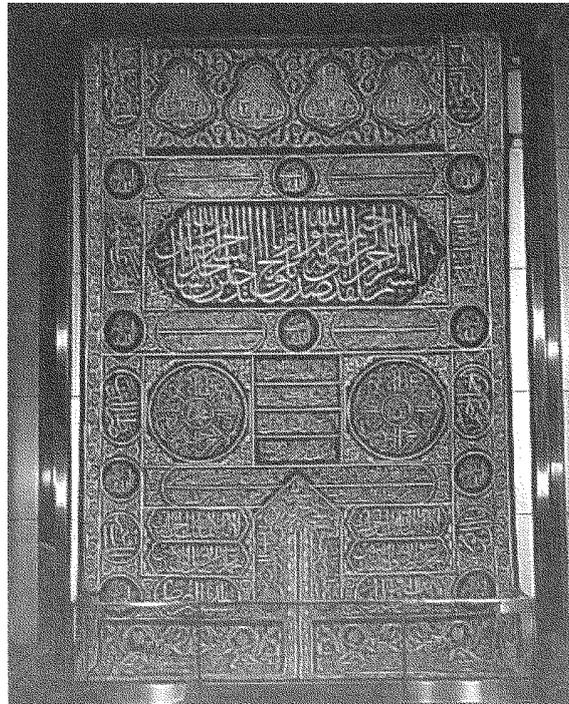
- | | | | |
|---|---------|----------|----------|
| ① | ハプスブルク家 | a—16世紀半ば | b—18世紀半ば |
| ② | ハプスブルク家 | a—18世紀半ば | b—16世紀半ば |
| ③ | ブルボン家 | a—16世紀半ば | b—18世紀半ば |
| ④ | ブルボン家 | a—18世紀半ば | b—16世紀半ば |

問6 下線部⑥について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

24

- ① カルロヴィッツ条約で、エジプトを失った。
- ② カピチュレーションと呼ばれる通商特権を、ムスリム商人に与えた。
- ③ 軍管区制(テマ制)で、軍人に土地からの徴税権が与えられた。
- ④ 第一次世界大戦に、同盟国側で参戦した。

C 聖地の保護と⑦巡礼路の安全の確保は、イスラーム政権の君主にとっての義務であると同時に、国家の威信を示す手段でもあった。聖地を保護下に置いていた⑧マムルーク朝は、毎年「巡礼のアミール」を任命して巡礼者の警護に当たらせるとともに、聖地の神殿を飾る覆い(キスワ)を運ぶ任務を担わせた(下図参照)。これに対して中央アジアのイスラーム君主シャー=ルフは、豪華な贈り物と引き換えにキスワを提供する権利を得たが、マムルーク朝はシャー=ルフからのキスワを神殿の内側にかけて、外側の覆いを提供する権利は譲らなかった。巡礼にまつわる様々な行為が⑨統治者の権威を示すものとみなされ、国家間交渉の道具とされたのである。



キスワの一部(国立民族学博物館蔵)

問7 下線部⑦について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 25

- ① 古代ローマで、サンティアゴ=デ=コンポステラ(サンティアゴ=デ=コンポステラ、サンチャゴ=デ=コンポステラ)への巡礼熱が高まった。
- ② 巡礼の旅をしたイブン=バットゥータは、『大旅行記』(『三大陸周遊記』)を残した。
- ③ ピルグリム=ファーザーズ(巡礼の父祖)と呼ばれるカトリック教徒の一団が、アメリカに渡った。
- ④ ソンガイ王国のマンサ=ムーサは、巡礼の途上で、大量の金を使用した。

問8 下線部⑧の対外関係について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 26

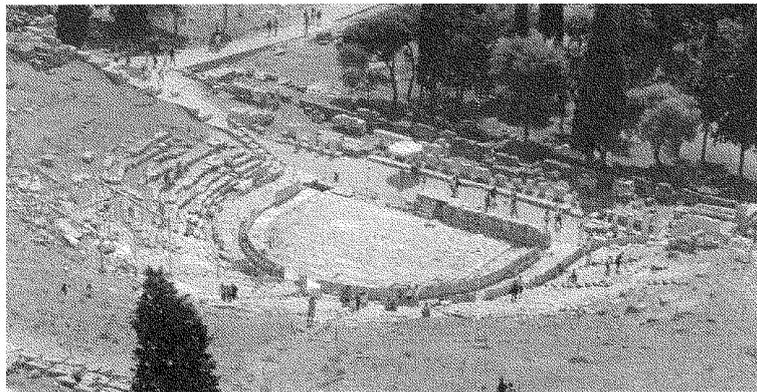
- ① シリアで、モンゴル軍を撃退した。
- ② 十字軍を破り、イェルサレムを奪回した。
- ③ 北インドへの侵略を繰り返した。
- ④ アナトリアに進出して、ビザンツ帝国を圧迫した。

問9 下線部⑨に関連して、政治的・宗教的な権威や権力について述べた文として波線部の正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 27

- ① 新王国時代に、ファラオの権力を象徴するピラミッドが建造された。
- ② ニケーア公会議で、教皇の至上権が再確認された。
- ③ 墨家は、強大な権力を持つ君主が、法により統治を行うべきだと主張した。
- ④ ファーティマ朝は、アッバース朝の権威を否定して、カリフの称号を用いた。

第4問 宗教と政治について述べた次の文章A～Cを読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 25)

A ①古代ギリシアの多神教世界では、②宗教と世俗が複雑に絡み合っていた。例えば、アテネのアクロポリス南麓にある劇場では、悲劇や喜劇の競演などが行われたが、これは酒神ディオニュソスを^{まつ}祀る国家的祝祭の一部であった(下図参照)。そこで上演された三大悲劇詩人らの作品の観劇は、市民たちが自らの価値観や民主政体を批判的に見つめ直す機会としても機能した。喜劇もまた単なる娯楽ではなく、時に実名を挙げて③指導者らに痛烈な^や擲^ゆを浴びせる批判的な性格を持っていた。



アテネのディオニュソス劇場跡

問1 下線部①について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

28

- ① ペロポネソス戦争で、スパルタはペルシアの支援を受けた。
- ② カイロネイアの戦いで、アテネ・テーベ連合軍は、マケドニアに勝利した。
- ③ テミстокレスが、アクティウムの海戦でペルシア軍に勝利した。
- ④ スパルタを盟主として、デロス同盟が結成された。

問2 下線部②に関連して、次の年表に示した a～d の時期のうち、「ピピンの寄進」が行われた時期として正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 29

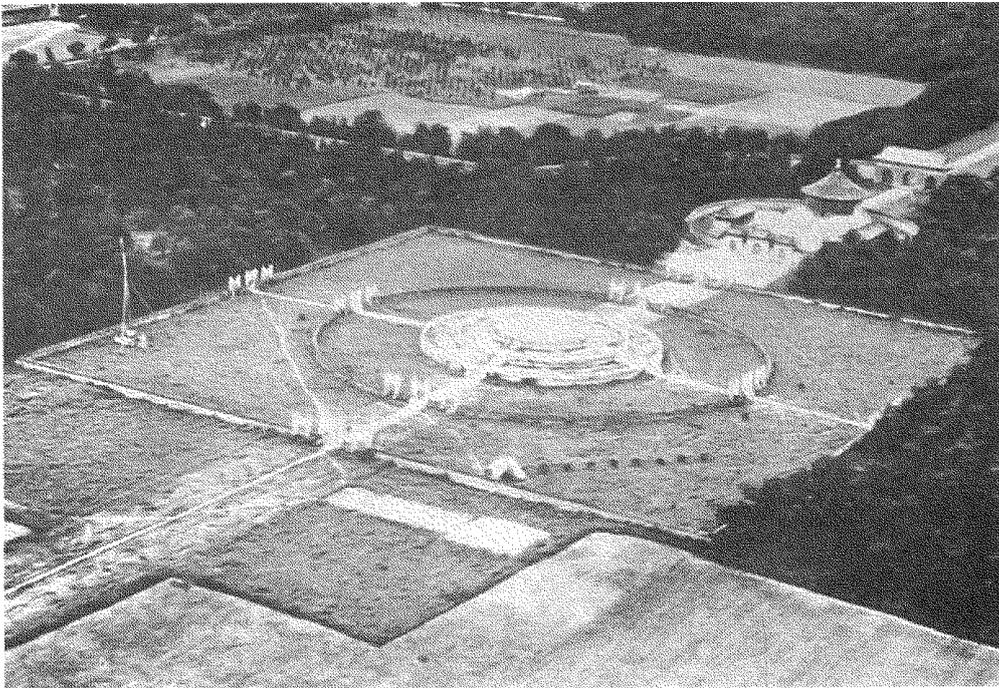
a
568年 ランゴバルド王国建国
b
711年 西ゴート王国滅亡
c
804年 アルクイン没
d

- ① a ② b ③ c ④ d

問3 下線部③に関連して、社会や政治への風刺・批判について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 30

- ① ラブレーは、『愚神礼讃』（『愚神礼賛』）で教会を風刺した。
- ② イギリス領北アメリカ植民地の人々は、「代表なくして課税なし」を主張して、全権委任法を撤回させた。
- ③ ウィーン会議は、「会議は踊る、されど進まず」と風刺された。
- ④ ヘシオドスが、政治を風刺する喜劇を作った。

B 中国では、天命を受けた天子が天下を治める資格をもつものと考えられていた。
④漢代以後になると、天を祭る郊祀きょうしと呼ばれる儀礼が、儒教の⑤経典にのっとって整備された。都の南側の郊外には、円盤状の土壇を重ねて天を象徴する円丘が設けられ、天子たる皇帝あるいは代理の役人がその最上段に上って毎年⑥祭祀を執り行うことで、時の皇帝が天命を受けていることを確認したのである。郊祀は中国歴代王朝によって連綿と受け継がれていった。北京市内に現存し、観光地としても有名な天壇は、清代に郊祀を行った施設である（下図参照）。



北京天壇の円丘

問4 下線部④の時期に起こった出来事について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 31

- ① 呉楚七国の乱が起こった。
- ② 三省・六部が設けられた。
- ③ 土木の変が起こった。
- ④ 八王の乱が起こった。

問5 下線部⑤に関連して、中国の学問や文化について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 32

- ① 顧炎武が、陽明学の基礎を築いた。
- ② 韓愈が、四六駢儷体の復興を唱えた。
- ③ 『四庫全書』が、明朝で編纂へんさんされた。
- ④ 四書が、朱子学で重んじられた。

問6 下線部⑥に関連して、宗教や信仰について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 33

- ① 雲崗に、道教の石窟寺院が築かれた。
- ② 神聖ローマ帝国で、ミトラ教が流行した。
- ③ レオン3世が、聖像禁止令(聖像崇拜禁止令)を發布した。
- ④ ガザン=ハンが、ユダヤ教を国教とした。

C ヨーロッパ人の到来以前、アンデス地域で栄えた帝国では⑦太陽崇拝が行われ、帝都で神官が宗教儀式を執り行っていた。インティ=ライミ(太陽の祭)と呼ばれる国家祭祀である。しかし、16世紀にこの地域が⑧スペインの植民地に組み込まれると、キリスト教を強制する政策によって、太陽崇拝は異教として禁止された。その後、4世紀にわたり失われていたこの祭は、アンデス高地の民俗文化を振興しようとする人々の働きかけにより、かつての伝承を頼りとして、⑨第二次世界大戦の時期に再生された。今日では、毎年6月の恒例行事として盛大に行われている。

問7 下線部⑦について述べた次の文 **a** と **b** の正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 34

- a 古代インドで、太陽神ラーが信仰された。
- b インカ帝国で、皇帝は太陽の化身(太陽の子)とされた。

- ① a—正 b—正
- ② a—正 b—誤
- ③ a—誤 b—正
- ④ a—誤 b—誤

問8 下線部⑧のアメリカ大陸への進出について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 35

- ① ピサロが、アステカ王国を征服した。
- ② ラス=カサスが、先住民の救済に努めた。
- ③ ポトシで、ダイヤモンド鉱山が開発された。
- ④ オランダとの間で、トルデシリャス条約が結ばれた。

問9 下線部⑨の終結以前に起こった出来事として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

36

- ① 第1回先進国首脳会議(サミット)が開催された。
- ② アフリカ統一機構(OAU)が結成された。
- ③ ドイツ軍が，スペインのゲルニカを爆撃した。
- ④ トルーマン=ドクトリンが発表された。

【解説】

第1問 世界史上の歴史的建造物や遺跡

A

問1 正解③ (歴史的建造物)

- ①ヴェルサイユ宮殿はフランス絶対王政のシンボルであり、ルイ14世時代に建造が始まった。P. 201とP. 208で確認できる。オーストリアのシェーンブルン宮殿、プロイセンのサンサーシ宮殿と並び称される有名建築であり、様式の違いも確認しておきたい。P. 208には各宮殿内部の写真もある。
- ②スレイマン=モスクはイスタンブールの大モスク群の中のひとつで、折り重なるドームとミナレットの調和が見事(P. 177)。その名の通り、オスマン帝国最盛期のスレイマン1世時代のもの。
- ③アンコール=ワットはヒンドゥー教寺院から仏教寺院に転じた東南アジアを代表する大建造物で(P. 101)、ボロブドゥールと双璧をなす。東南アジア史については、民族・宗教の混交と多様性がポイントとなるので、P. 102などを利用して整理したい。
- ④アルハンブラ宮殿は現スペインにあるナスル朝時代のイスラーム建築で、繊細なアラベスク模様が見る者を魅了する(P. 129)。ナスル朝はレコンキスタの最終局面でキリスト教勢力に対峙したイベリア最後のイスラーム国家である。レコンキスタの過程もP. 143で確認しておこう。

問2 正解④ (反乱や独立運動, 戦争)

- ①P. 224を参照して、ラテンアメリカ独立の経過や指導者を整理したい。メキシコの独立はイダルゴが、ハイチの独立運動はトゥサン=ルヴェルチュールが指導した。
- ②農奴制の明確な帝政ロシアでは、コサックと呼ばれる逃亡農民による戦士団が形成された(P. 204)。ステンカ=ラージンやプガチョフの反乱はコサックが中心となっている。ポーランドの苦難の歴史についてはP. 203参照。周辺の大国による「ポーランド分割」で祖国が消え、コシューシコなどの反乱を生じさせた。独立回復は第一次世界大戦後である。

- ③P. 261 参照。第一次世界大戦初期のドイツはフランスとの短期決戦を狙っていたが、マルヌの戦い以降、塹壕戦が泥沼化した。戦争が長引く中、ドイツの無制限潜水艦作戦の宣言がアメリカの参戦を招いた。マルヌの戦いそのものよりも、第一次世界大戦の流れを理解しておきたい。
- ④黄巾の乱については P. 113 参照。黄巾の乱は太平道・五斗米道などの宗教結社の発展と並行する民衆反乱である。中国歴代王朝の民衆反乱には、白蓮教と結び付いた紅巾の乱のように、宗教と関係したものが多い。

問 3 正解② (17 世紀にイギリスで起こった出来事) 3

- ①イングランド議会の発展については P. 148 の 2 で整理したい。騎士・都市を代表する市民・下級聖職者を含む模範議会をエドワード 1 世が招集したのは 13 世紀末。マグナ=カルタ以降の議会制度の発展はいずれも、国王の恣意的な課税や専制を抑制する働きを有していた。
- ②ピューリタン革命・名誉革命については P. 205 で整理し、チャールズ 1 世→クロムウェル時代→チャールズ 2 世→ジェームズ 2 世のそれぞれの治世の特徴を確認しよう。
- ③産業革命における技術発展については P. 213 参照。機械と発明者をやみくもに覚えるのではなく、織布の発展(飛び杼)→紡績機の発展(ジェニー紡績機, ミュール紡績機)→再び織布の発展(力織機)のような流れを理解したい。
- ④保守的なウィーン体制下のヨーロッパで、早くから自由主義的傾向が強かったイギリスの内政・外交を P. 226 で確認しよう。労働組合法は 2 回の選挙法改正の後、自由党グラッドストーン内閣で成立した。

B

問4 正解① (朝鮮半島の歴史) 4

朝鮮半島の歴史については、P. 174 のテーマページに整理されている。近年、世界史の中の日本史がクローズアップされつつあるので、中国・日本との関わりを含めた学習が求められる。

- ①年表にある通り正文(地図[C])。このうち、新羅が唐朝の支配に対抗しつつ、半島中南部を統一していく(地図[D])。
- ②新羅に次いで半島を支配した高麗は、王建が建国した。大祚榮は新羅よりも北方を支配した渤海の建国者(地図[D])。
- ③P. 252 参照。半島は、近代化していく日本と朝鮮を朝貢国とする清朝の間で覇権争いの場となった。同ページ[3]にもある通り、大院君は攘夷派であり、閔氏側と対立していた。
- ④P. 296 参照。日韓基本条約は朴正熙政権期の出来事。同大統領の暗殺以降、しばらく韓国は軍事政権の時代に入る。

問5 正解⑥ (冷戦期の出来事) 5

P. 286～P. 293 で戦後史を時代ごとに区分して整理しているので、順に確認してみよう。

冷戦が雪どけ・デタントと緊張を繰り返しながら続く中、米ソ両国が核戦争直前に至った瞬間がキューバ危機であった(P. 288)。この背景には、親米政権打倒をめざしたカストロらの革命があるので、P. 307 も合わせて参照したい。ただし、キューバ危機は米ソ首脳対話を生み、後のデタントの契機ともなった。

その後、ベトナム戦争の泥沼から抜け出したいアメリカは、ニクソン大統領の訪中を実現させる。その余波と言えるのが、日中国交正常化と日中平和友好条約である(P. 290[2])。

チェルノブイリの事故(P. 310 写真⑩)はソ連のハイテク化の遅れを象徴する事件であると同時に、ゴルバチョフによるペレストロイカ・グラスノスチを進展させる一因となった。

問6 正解③ (遺跡や遺物の発見) 6

- a ラスコーについては P. 67 参照。南仏のラスコー・ショーヴェ、スペインのアル

タミラ等では旧石器時代の遺跡が多く発見されている。

- b 兵馬俑については P. 109 のコラム参照。始皇帝陵を守るように、膨大な数の兵士と馬が隊列をなしている。

C

問7 正解④ (ポーランドの歴史) 7

- ①コペルニクスとガリレイの地動説は、ルネサンス期の科学を代表するとともに、当時のカトリック教会のあり方を知るポイントでもある。P. 193 の3参照。
- ②P. 203 の3参照。コシューシコはアメリカ独立戦争に参加した後、ポーランド分割に抵抗したナショナリスト。パリ=コミューンは、プロイセンとの戦争でフランス第二帝政が崩壊した後、パリ民衆が短期間樹立した「市民政府」(P. 227 の7)。
- ③ピウスツキは、帝政ロシアの崩壊を背景にポーランド独立を勝ち取った建国の父であり、かつ独裁者でもあった。P. 268 の2に掲載されている。
- ④冷戦期のポーランドは社会主義体制をとるものの、ソ連とは一線を画す意識も持っていた。スターリン批判の後のポズナニ暴動(反ソ暴動)や、民主化をめざすワレサの「連帯」などに、その意識が見える。冷戦期の東欧については、P. 311 で整理できる。

問8 正解② (第二次世界大戦に関わる歴史的建造物) 8

ユダヤ人に対する迫害はナチスに始まったことではない。P. 277 を見ると、様々な理由、様々な形の迫害が行われたことがわかる。迫害を避けつつ離散したユダヤ人はポーランドやロシアに比較的多く(地図A)、ポーランドに位置するアウシュヴィッツがホロコーストの舞台となった。

レジスタンスは、ドイツに支配されたフランスやユーゴスラヴィアなどの反ファシズム運動であり、P. 280 に掲載されている。ここから、ド=ゴールらの「英雄」も生まれた。

戦後処理については P. 283 の3を参照。ナチス=ドイツの戦争犯罪はニュルンベルクで裁かれた。

問9 正解② (ロシアやソ連の君主・指導者) 9

- ①P. 141 の5参照。ロシアとギリシア正教の関わりは、キエフ公国ウラディミル1世の改宗で深まる。正教の「本山」であるビザンツ帝国滅亡後、モスクワ大公国は正教世界の盟主の継承を自認し、ツァーリの称号も受け継いでいった。
- ②P. 265 参照。レーニンの指導したロシア革命後のロシア・ソ連は、コミンテルンの存在に象徴されるように社会主義革命の波及を意識し、資本主義世界と対立し

た。しかし、レーニン没後の権力闘争の中で、トロツキーの世界革命論とスターリンの一国社会主義論の内部対立が起こり、後者が勝利をおさめる。

③P. 291 および解答番号 **5** の解説を参照。

④ロシア革命そのものの進展については、P. 264 で確認したい。二月革命で成立した臨時政府の妥協的性格や戦争継続方針に反発したボリシェヴィキが、十月革命で政権を握っていく流れである。臨時政府の首相となったのは社会革命党のケレンスキーで、臨時政府とボリシェヴィキのパイプ役を期待された。

第2問 世界史上の記録や文字

A

問1 正解② (北海・バルト海周辺の歴史) 10

- ①ノルマン人はゲルマン人と同様、全ヨーロッパに浸透して大きな影響を与えた。まずはP.136の①で移動・建国の様子を整理したい。そのうえで、イングランド史への影響として、デンマーク王子クヌートによる征服、ノルマンディー公による征服を確認しよう(同ページの②)。
- ②中世ヨーロッパの北海・バルト海商業圏についてはP.144に詳しい。同商業圏を結びつけるハンザ同盟都市に毛織物を供給していたのがフランドル地方だから、原料の羊毛は(ハンザ同盟都市を経由しつつ)近場のイングランドから得ていた。
- ③P.200参照。グスタフ=アドルフが参戦した三十年戦争は、近世ヨーロッパ史の重要ポイントの1つで、カトリックとプロテスタントの宗教戦争であると同時に、フランス王家とハプスブルク家の長年にわたる対立の一局面とも言える。結果としてのウェストファリア条約の内容も含めて、きっちり理解したい。
- ④P.205にあるように、航海法が制定されたのはピューリタン革命後の共和政時代。17世紀はイギリスの重商主義の発展期でもあり、オランダやフランスと覇権を争いながら、北米・インドに勢力圏を広げていった。その過程はP.210・P.211を参照し、特に地図も活用しながら確認しておこう。

問2 正解② (支配に関わる歴史) 11

- ①フォークランド戦争についてはP.307でわかるように、イギリスとアルゼンチンの紛争。
- ②アフリカ植民地化についてはP.257で整理。英仏に比べてドイツ領はカメルーンなどに限定されている。これに劣勢を感じたヴィルヘルム2世が、モロッコ事件を起こすこととなる。
- ③大航海時代以降のポルトガルの拠点としては、ゴアやマラッカ、マカオなどに注目が集まりがちだが、中東のマスカットやホルムズにも支配地を確保していた。P.45で確認しよう。ホルムズからポルトガル人を追放したのはサファヴィー朝時代で、P.176に掲載されている。
- ④ニューファンドランドは現カナダの東端で、ユトレヒト条約を経てフランス領か

らイギリス領になった(P. 211)。同条約と 1763 年パリ条約による領土変更は、英仏の海外進出史では大きなポイントである。

問 3 正解③ (事績や戦争の記録) 12

- ①ヒンドゥー国家になる前のインドで、仏教とダルマに基づいた統治をめざしたのがアショーカ王。P. 98 の地図 A に、石柱碑の分布が示されている。
- ②P. 89 参照。カエサルは共和政ローマの将軍でガリア遠征を行い、後に独裁化して暗殺された。歴史的逸話の豊富な人物だが、『ガリア戦記』(P. 92)は見事なラテン語で記され、歴史史料としても価値が高い。
- ③P. 136 参照。タペストリ(タピスリー)には歴史的な場面が描かれているが、イングランドを征服したのはデーン人やノルマン人である。マジヤール人は P. 136 の地図 A にある通り、東方から移動して神聖ローマ帝国と戦った後(P. 135 の年表も参照)、現ハンガリーの基礎を築いた。
- ④同絵画は P. 221 に掲載されている。ダヴィドはフランス革命を描いた画家というイメージが強く、「球戯場の誓い」「マラーの死」「サン=ベルナル峠を越えるボナパルト」も図表に掲載されている。ウィーン体制下のロマン派画家であるドラクロワと対比されることも多い。

B

問 4 正解③ (国家の建設と文字の制作) 13

宋代中国と関わった契丹・西夏・金については、P. 153 で統治体制などの基本事項を整理したい。それぞれが独自の文字を使用したことも特徴的で、P. 157 の⁵に例示されている。また、P. 152 にあるように、完顔阿骨打の建国した金に滅ぼされた契丹の耶律大石が、内陸アジアで西遼を建国する。

問 5 正解① (チンギス=ハンの事績) 14

モンゴル帝国は 13 世紀中に P. 39 のような大帝国となるが、P. 162 の年表や地図^Aを利用して、拡大の経過を整理することは必要だろう。①はチンギス=ハン、②はオゴタイ、③はフビライの時代の事象である。④のチャハル部は明清代まで残存したモンゴル系部族の居住地で、清朝の藩部として統治された(P. 171 の³)。現代の内モンゴルに相当する。

問 6 正解③ (アンカラの戦い) 15

該当するのはアンカラの戦い(1402年)であり、P. 178 で確認できる。15 世紀がティムール帝国の台頭期であることは P. 43 で見ておきたい。一方、アンカラの戦いで一時中断したオスマン帝国もやがて復活し、15 世紀半ばにはコンスタンティノープルを陥落させ、16 世紀前半にはプレヴェザの海戦でキリスト教勢力を破ることとなる。同海戦の場所は P. 179 の地図^Bにある。

C

問7 正解③ (インドの王朝や政治勢力) 16

- ①ムガル帝国の端緒はバーブルの侵入にあり、P. 180 の地図[C]で確認できる。重要なアクバルとアウラングゼーブの治世について年表等で整理するとともに、最大領域を地図[D]で見てもおこう。アウラングゼーブ時代に領土は最大となるが、ヒンドゥー教徒に対する抑圧政策から反乱を招くこととなる。
- ②南インドの古代王朝としては、東西交渉の要衝となったサータヴァーハナ朝(P. 12～P. 17)、シュリーヴィジャヤに遠征してインド洋海域支配を制覇したチョーラ朝(P. 35)などを忘れてはならない。
- ③インドの植民地化を争った英仏の拠点については、P. 211 や P. 244 の地図を用いて確認することが必要。
- ④ヴィジャヤナガル王国はアクバル時代のムガル帝国と対峙した(P. 180 の地図[C])。しかし、「大量の馬」はおかしい。優れた馬は内陸アジアに多い。

問8 正解① (歴史書や歴史学) 17

- ①P. 84 で確認。アケメネス朝との戦争を描いたヘロドトスと、ペロポネソス戦争を綴ったトゥキディデスは、歴史叙述の方法も異なるため、よく対比される。
- ②司馬遷について、P. 112 のコラムを見て欲しい。中国歴代王朝の正史編纂に影響を与えただけでなく、人間像を生々しく伝えることで歴史の本質を掘り下げた。ヘロドトスと並び称される「歴史の父」である。
- ③P. 128 参照。イスラーム世界の史学では、ラシード=アッディーンとともによく登場する。イブン=バットゥータと混同しないように。
- ④ナショナリズムの台頭の中でドイツが国民国家を形成するのに並行して、史料批判に基づいた近代歴史学が確立した(P. 240)。その代表格がランケである。

問9 正解① (貴族の歴史) 18

- ①プロイセンなどの東欧世界は、マニュファクチュア等が芽生え始めた西欧世界に対する穀物輸出地域となり、グーツヘルシャフトが拡大した。このことから必然的に、政治・軍事を握るユンカーが台頭したのである。P. 202 を参照。ビスマルクの強権もユンカーとしての地位に依存した。P. 229 も合わせて確認したい。
- ②P. 88 の下部参照。古代ギリシアと異なり、共和政ローマにおける平民への参政権

拡大は完全なものではなかった。平民(プレブス)の一部が政権支配に参画したに過ぎない。旧来の貴族をパトリキ，平民の一部を吸収した新貴族層をノビレスと呼ぶ。

③唐末は中国史の転換期で，門閥的貴族の没落と新興地主(形勢戸)の台頭が，宋代にかけて進展した。P. 120 の¹で流れを確認しよう。形勢戸は同時に知識人として文化(朱子学等の儒学も含む)の担い手となり(P. 155)，しばしば科挙に合格して官戸と呼ばれる有力者集団と化していった(P. 153 の²)。

④P. 218 の²参照。貴族は聖職者とともに特権を持つが，カトリック国家であるフランスでは，第一身分が聖職者になっていた。

第3問 世界史上の国際関係

A

問1 正解③ (アメリカ合衆国の経済) 19

- ①歴史の流れをつかむうえで、極めて重要な事項。P. 255 の[2]でわかるように、19世紀末、既にアメリカは世界最大の工業国だったが、その発展の裏で債務を抱えていた。イギリスよりも「後発」だったから、当然である。しかし、第一次世界大戦に参戦し勝敗を決したアメリカは、これを機に債権国に転じ、世界経済を牛耳っていく(P. 270)。
- ②P. 254 に見られるように、アメリカでは企業合同など独占資本化が進んだ。ただし、同ページの風刺画の通り、独占に対する社会からの批判は強く、反トラスト法の制定などが相次いだ(P. 256)。
- ③TVAを含むニューディールは、資本主義の矛盾を緩和する財政政策の基本理念になっていく。P. 276 の[2]で整理したい。
- ④重化学工業を含む本格的産業革命は南北戦争後であるが(P. 236 の[1])、イギリス経済からの自立の芽生えは米英戦争と言って良い。P. 234 の写真①解説を参照。

問2 正解③ (独立の歴史) 20

- ①P. 257 参照。モザンビークはポルトガル領。
- ②ギリシアはオスマン帝国からの独立である。P. 232 の地図[A]参照。ギリシア独立はウィーン体制を揺るがす事件の1つであり(P. 223 の年表参照)、バルカン半島のナショナリズムに列強の利害が絡む東方問題の端緒ともなった(P. 232 の[1])。
- ③P. 102 参照。ベトナム南部は港市国家として発展する一方、北部は李朝として中国から独立した後も、一時、明朝に服属した。南北が「統一」されるのは18世紀末以降である。
- ④明らかな誤文。インドネシアはオランダ領、マレーシアとシンガポールはイギリス領である(P. 246 地図[B])。ただし、マレーシアとシンガポールは華僑・華人の比率が異なる(地図[C])。これも背景となって、シンガポールは「マレーシアから分離独立」することになる。P. 298 の[1]に掲載されている。

問3 正解① (20世紀前半のイギリスの経済政策) 21

世界恐慌下の主要国の動向については、P. 276 の³を参照。地図ではカナダがドル地域になっているが、一方でイギリス連邦の存在、カナダが連邦内の自治領であることを踏まえれば、ドイツよりもカナダとの貿易が増えることは容易に想起できる。ダンバートン=オークス会議は P. 283 に掲載。国連設立への布石となる重要な会議である。

B

問 4 正解② (国際関係の歴史) 22

- ①P. 198 の 2 参照。16 世紀のイギリスをとらえるポイントの 1 つは、国教会とカトリックの間の「揺らぎ」である。その意味で、メアリ 1 世は重要。大ブリテン王国の成立はアン女王の治世であり、P. 205 の年表末尾で確認できる。アイルランドの合同はさらに遅いので注意。
- ②アメリカの領土拡大過程は P. 234 で整理しよう。テキサス併合を契機とするメキシコとの戦争の結果、アメリカに割譲された領土の中にカリフォルニアが含まれていた。
- ③いわゆる「未回収のイタリア」のことだが、回収すべき相手はオーストリア。イタリア統一が一段落する 1871 年で「未回収」だった領域の場所を、P. 228 の地図 B で見ておきたい。これらが「ほぼ」イタリア領になるのは第一次世界大戦後のサン＝ジェルマン条約の時である (P. 267)。
- ④P. 309 参照。E C S C など 3 組織から E C が結成される。E C の原加盟国でないイギリスは当初 E F T A に属していたが、やがて E C に鞍替えする。イギリスが現在 E U からの離脱を表明していることをふまえると、このような出題は時事問題とも言えるだろう。

問 5 正解① (ハプスブルク家の支配領域) 23

14～15 世紀のハプスブルク家の領土はまだ小さい (P. 149 地図 B) もの、神聖ローマ皇帝位を事実上世襲するようになる (P. 148 年表)。次に P. 345 を見て欲しい。スペイン王だった同家のカルロス 1 世が神聖ローマ皇帝を兼ねてカール 5 世を名乗る。彼はオーストリアとスペイン、さらにその植民地をすべて領有する大帝国の主となった (P. 198)。この時の状態が、問題の地図 a である。しかし、カール 5 世は退位に際して、領土を弟と息子に分割相続し、大帝国はスペイン系とオーストリア系に分かれていく。17 世紀半ばでもその状態は続いているのが、P. 200 の地図 A で分かる。しかし、ハプスブルク家はフランス-ブルボン家との対立が激しくなり、18 世紀に入るとスペインはブルボン家のものとなる。この状態が P. 203 の地図 C、すなわち問題の地図 b である。

問 6 正解④ (オスマン帝国の歴史) 24

- ①P. 178 年表と P. 179 地図 **B** 参照。レパントの海戦での敗北後も全盛を維持したオスマン帝国は、第2次ウィーン包囲失敗から領土の縮小傾向が顕著となる。カルロヴィッツ条約によるハンガリー喪失は、その初期の事例と言える。
- ②オスマン帝国の独特の統治体制は P. 179 の図を見て、しっかり理解しておこう。元キリスト教徒を徴用するイエリチェリ軍団、間接統治と直接統治の使い分け、異教徒に認められた自治システムのほか、帝国内の「非」ムスリムに認められた通商権(カピチュレーション)も重要である。特に、カピチュレーションは、全盛期のオスマン帝国経済を支えたが、衰退期に入ると、治外法権を含む不平等条約に近似する機能を発揮した。
- ③テマ制はビザンツ帝国のシステムで、P. 139 の表で確認できる。同帝国で後に採用されるプロノイア制とともに理解しておこう。
- ④P. 260 の **2** 参照。1878 年のベルリン会議以降、バルカンの領土喪失が急速に進んだオスマン帝国は、イタリアにリビアを奪われ、ロシアの支援するバルカン同盟にも敗北して、イスタンブルを除くバルカン半島の領土をほとんど失った。このような流れの中、第一次世界大戦でオスマン帝国はドイツ・オーストリアの同盟国側で戦い(P. 261)、敗北して、トルコ革命を迎える。

C

問7 正解② (巡礼の歴史) 25

- ①P. 142 に詳細な記載のある聖地イェルサレムへの十字軍には、騎士(軍人)だけでなく、多くの巡礼者も含まれていた。中世ヨーロッパの巡礼先はイェルサレムに留まらず、ローマやサンティアゴ(サンチアゴ)をめざす人も多かった(P. 143 コラム)。
- ②ムハンマドの出身部族からもわかるように、イスラーム教徒は商業活動に秀でた集団でもあり、アジア人やヨーロッパ人の商人と結びついて巨大なネットワーク(P. 161 の地図[D])をつくりあげた。その隅々まで旅行し、『三大陸周遊記』をのこしたのがイブン=バトゥータである。付属する年表の中に「巡礼」「ジハード」という言葉が見られる通り、彼の旅は単なる余暇や娯楽ではない。イスラーム=ネットワークの時代、海の道・シルクロード・草原の道を結合するもう1つの原動力となったのが、モンゴル帝国の成立である。P. 165 地図[C]も合わせて見ておきたい。
- ③後のアメリカ合衆国となる13植民地の本格的端緒と言えるのが、ピルグリム=ファーザーズの入植である。P. 216 の年表やコラムを参照したい。彼らはカトリックではなく、信仰の自由を求めてイギリスから逃れたピューリタンである。
- ④P. 130 の[3]と P. 131 の[5]参照。西アフリカのイスラーム国家としては、イベリア半島にまたがるムラービト朝・ムワッヒド朝に加え、ニジェール川方面で岩塩・金の交易で栄えたガーナ・マリ・ソンガイ王国も重要である。マリ王国のマンサ=ムーサについては、コラムもあるので読んでほしい。

問8 正解① (マムルーク朝の対外関係) 26

P. 126 の4つの地図とその解説を見て、イスラーム史の流れを理解しよう。マムルーク朝はキリスト教徒による聖地十字軍の最後の拠点陥落させ、モンゴル勢力の侵入を撃退したうえ、メッカ・メディナを支配して、アッバース朝に代わるイスラーム世界の盟主的存在となっていく。カイロにおける商業・学問の発展もマムルーク朝時代が目立つ。

- ①これが正文。地図[D]参照。
- ②誤文。イェルサレム奪回はアイユーブ朝のサラディン(地図[C])。
- ③誤文。北インドに侵入するのはガズナ朝やゴール朝(地図[B]・[C])。

④誤文。アナトリアに進出したのはセルジューク朝(地図[B])。

問9 正解④ (政治的・宗教的な権威や権力) 27

- ①ピラミッドそのものについてはP.72に詳しい。ファラオの権力が背景にあって、はじめて建造できる規模と言える。建築と言うより大事業と言うべきだろう。建造時期は古王国時代である。P.70の年表も見ておきたい。
- ②P.95の図式を参照。ミラノ勅令により、ローマ帝国でキリスト教が公認された後、教義の確立が重要となった。アタナシウス派や三位一体説が正当化されていく過程は整理したい。ニケーア公会議はコンスタンティヌス帝が招集している(写真⑦解説)。教皇権が確立するのはグレゴリウス1世の頃とされるので(P.138年表)、ニケーア公会議で至上権の「再」確認はおかしい。至上権の再確認が必要となるのは、ルターなどによる宗教改革の結果であり、トリエント公会議を想起すべきである(P.194年表)。
- ③P.108で諸子百家を整理しておこう。法による統治は法家思想であり、商鞅・李斯のように権力者に使えた学者も多い。墨家は平等愛(兼愛)や非攻(侵略の否定)を解き、儒家に対抗し得る強力な教団となった。
- ④P.126の地図[A]またはP.32参照。10世紀は、3カリフの鼎立やシーア派の台頭など、イスラーム世界の分裂傾向が顕著で、ファーティマ朝はその象徴的存在。

第4問 世界史上の宗教と政治

A

問1 正解① (古代ギリシア) 28

- ①P. 80 年表と P. 81 の7参照。ペリクレス時代の末期、アテネとデロス同盟の覇権にスパルタ陣営が対抗して起こったのがペロポネソス戦争で、戦争初期にペリクレスを疫病で失ったアテネ側が敗北した。この戦争の後、アケメネス朝がギリシア諸ポリスの争いに介入して混乱を助長し、ポリス社会の崩壊が顕著となる。
- ②フィリッポス2世率いるマケドニア軍がギリシア軍を破ったのがカイロネイアの戦い。P. 82 参照。
- ③テミストクレスが登場するのはサラミスの海戦であり、P. 80 の年表で確認できる。この時活躍した三段櫂船の漕ぎ手が無産市民であり(P. 81 に写真あり)、アテネ民主政の完成につながった。アクティウムの海戦はローマとプトレマイオス朝エジプトの戦いであり、ギリシア系王朝が旧アレクサンドロス大王帝国領を支配したヘレニズム時代の終焉を告げる。P. 82 の年表を確認しよう。ローマはエジプトを属州とし、地中海を囲む体制を完成させた。P. 91 の地図Dも見ておきたい。
- ④前述の通り、デロス同盟はアテネ中心。

問2 正解③ (「ピピンの寄進」が行われた時期) 29

P. 135 でフランク王国とカトリック教会の結び付きを整理しよう。クローヴィスのアタナシウス派への改宗→カール=マルテルがトゥール=ポワティエ間の戦いでイスラームに勝利→ピピン3世のランゴバルド撃破と教皇への領地寄進→カール大帝時代のランゴバルド王国滅亡と「戴冠」という順に進む。

「ピピンの寄進」はランゴバルド王国の存在が前提なので、aは間違っている。カール=マルテルが勝利したのはイスラーム国家に対してであるから、トゥール=ポワティエ間の戦いは西ゴート王国(ゲルマン国家)の滅亡よりも後になる。「寄進」はこの戦いよりさらに後なので、bも不適である。dはカールの戴冠よりも後になるので不適。したがってcが正解となる。

問3 正解③ (社会や政治への風刺・批判) 30

- ①エラスムス『愚神礼讃』についてはP. 192 の2。ラブレールはモンテーニュと並ぶ

フランス=ルネサンス文学の代表格であり， P. 188 の²に掲載。

- ②P. 216 参照。イギリス本国による重商主義的統制が強まる中，印紙法に対する反発が「代表なくして課税なし」の主張を生み出した。全権委任法はヒトラーの独裁化過程で登場する。P. 278 年表参照。
- ③P. 222 の写真②解説参照。フランス革命前の状態にヨーロッパを戻そうとするウィーン会議の議事は難航し，このように擲揄された。
- ④古代ギリシアでは P. 87 のような劇場で悲喜劇が上演され，市民の政治意識の醸成に寄与した。特に喜劇には社会を風刺する題材も多かった(P. 84)。アリストファネスが喜劇の名手であった。ヘシオドスは叙事詩で知られる。

B

問4 正解① (漢代の出来事) 31

- ①呉楚七国の乱については P. 110 の地図A参照。背景には前漢時代の諸侯領の削減がある。
- ②唐代の律令体制，特に三省六部の設置については P. 117 の5参照。
- ③15世紀の明では，北方からモンゴル勢力の侵入が相次ぎ，正統帝が捕らえられる事態も起こった。P. 166 年表や P. 167 の図「明の対外関係」で確認しよう。
- ④八王の乱・永嘉の乱は西晋時代の事象。P. 114 で確認。

問5 正解④ (中国の学問や文化) 32

- ①顧炎武は P. 173 に掲載。黄宗羲とともに明末清初の考証学の学者として知られる。陽明学では明代の王守仁が有名。
- ②四六駢儷体は，魏晋南北朝時代の南朝の門閥貴族文化の典型である。P. 115 の2を参照。韓愈は唐代の散文家で，四六駢儷体に反対した。(P. 118 の1)
- ③P. 173 参照。清朝は反満思想の弾圧の一方で，学術は奨励し、『四庫全書』を含む編纂事業を進めた。明代永楽帝による編纂事業の『四書大全』などと混同しないようにしたい。
- ④儒学の古典であり，科挙の出題にも関係する四書五経については P. 112 に整理されている。P. 155 の4では，朱子学が四書重視したことが確認できる。

問6 正解③ (宗教や信仰) 33

- ①P. 114・P. 115 に三大石窟が整理されており，北朝における国家仏教の成立が想起できる。非漢族系王朝の北朝は儒学に代わるイデオロギーとして，仏教や道教を利用することも多かった。南朝の貴族仏教と対比される。
- ②キリスト教が拡大する前のローマ帝国では，古代ギリシアの神々に加えて，オリエント起源の宗教(ミトラ教やマニ教)も信仰された。P. 921参照。
- ③P. 139 参照。レオン3世の聖像禁止令は東西両教会の対立の一側面であり，同時にビザンツ皇帝が聖俗両権を握っていることの表れでもあった。
- ④P. 127 参照。ガザン=ハンはイル=ハン国の君主で，イスラームに改宗し，イラン系官僚を登用して国家体制を固めた。

C

問7 正解③ (太陽崇拜) 34

- a 古代インドの宗教的キーワードは輪廻転生である。太陽神ラーは古代エジプトの信仰対象であり、ナイル川の定期的氾濫や天文学の発展と結び付いていた。P. 75²参照。P. 72 の写真③「死者の書」などからもわかるように古代エジプトは多神教であり、その主神にラーが存在する。
- b 古代アメリカの文明でも太陽信仰は強かった。P. 185 参照。マヤ文明のピラミッドはその象徴と言える。インカ帝国では、支配者が太陽の化身とされた。

問8 正解② (スペインのアメリカ大陸への進出) 35

- ①P. 185 参照。アステカ文明はコルテスに、インカ文明はピサロに征服された。先住民の知らない鉄砲や馬を備えた軍隊の力は、実数以上に強力だった。
- ②ラス=カサスについては P. 186 のコラム参照。いわゆる「コロンブスの交換」で、ヨーロッパ人はトウモロコシやジャガイモなど有用な作物に出会ったが、先住民側は未知の伝染病や強制労働により人口激減の憂き目に遭う。このような支配のあり方の不当性を訴えたのがラス=カサスであった。
- ③ポトシは日本の石見とともに世界最大級の銀山として発展した。メキシコ銀と日本銀が世界規模の交易を支えた 16~17 世紀の様子について、P. 187 で学習して欲しい。
- ④大航海時代で先行したスペインとポルトガルの勢力圏を分けたのがトリデシリヤス条約とサラゴサ条約で、P. 183 に掲載されている。両国に続くのが、東インド会社を設立し重商主義政策を採った英仏蘭である。

問9 正解③ (第二次世界大戦終結以前の出来事) 36

- ①サミット開催の背景は、世界経済の多極化と石油危機に伴う不況であった。P. 290 の写真④解説を参照。
- ②P. 289 と P. 304 参照。第二次世界大戦後、アフリカ諸国の独立が相次ぎ、特に 1960 年は「アフリカの年」と呼ばれるほどの独立ラッシュとなった。アフリカ諸国の連帯を掲げて設立されたのが O A U であり、後に A U に改組されて新たな段階をめざしている。この間に西サハラ以外のアフリカ大陸諸国が独立を達成している。
- ③P. 279 参照。ゲルニカ爆撃は第二次世界大戦の前哨戦と言われるスペイン内戦で

の出来事。この惨劇を描いたピカソの絵画も、芸術史上に輝く衝撃作だろう。

④P. 286 参照。トルーマン=ドクトリンはマーシャル=プランやN A T Oと同様、アメリカ合衆国による西側陣営(特に西欧諸国)の囲い込みを示す事象。